

令和 3 年 5 月 20 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H01612

研究課題名(和文) 高年初産婦とその夫に対する出産前教育プログラムの開発と検証

研究課題名(英文) The Development and Effectiveness of an Antenatal Parenting Education Program in Older Primiparous Couples

研究代表者

森 恵美 (Mori, Emi)

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：10230062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,700,000円

研究成果の概要(和文)：システマティックレビューにより、アジアの初産婦において、産後の母親の自信、うつ症状、育児ストレスに対して、出産前子育て教育の有効性を裏付ける根拠は十分ではないことが示された。そこで、高年初産婦とその夫に対する妊娠期の子育て支援プログラムを開発し、その効果を実験研究デザインで産後入院中、産後1、2か月の疲労、産後うつ症状、母親役割の自信と満足、夫婦の親役割調整について検証することを目的に研究を実施した。研究参加登録者は夫婦160組320人であり、介入群の夫婦81組、対照群夫婦79組であった。しかしながら、COVID-19の影響で参加者募集を延長したため、研究成果はまだ示すことができない。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、急増している高年初産婦と夫に特化し、産後の健康問題予防に効果的な妊娠期の看護介入プログラムは開発されていなかった。また、高年初産婦は親も高齢であるため実家に頼ることができず、夫を育児に巻き込む看護介入の必要性が増している。以上から、子育てが本格化し夫婦ともに心身の余裕がない、産後からの看護介入では、子育ての協働等に効果が期待できないことが推察され、妊娠期からの予期的看護介入が初産婦とその夫に対して行う必要性が高かった。特に、高年初産婦においては産後の生活に関する情報提供と夫婦の対話による子育て生活調整準備の促進を含むe-Learning等の出産前教育の効果検証研究は意義深いと考える。

研究成果の概要(英文)：Our systematic review found insufficient evidence supporting the effectiveness of a specific type of antenatal parenting education for maternal confidence, maternal depressive symptoms, and parenting stress in primiparous women in Asia. Therefore, we developed a child care support program using an experiment study design to be provided during pregnancy for older primiparous women and their husbands. We carried out a study for the purpose of identifying the support program's effect on maternal confidence and satisfaction, fatigue, and depressive symptoms during postpartum hospitalization and in the first and second postpartum months. There were 160 couples who registered to join the study, with 81 couples in the intervention group and 79 couples in the control group. However, we cannot yet show the results of the study since recruitment of participants was extended due to the impact of COVID-19.

研究分野：母性看護学

キーワード：看護学 高年初産婦 出産前教育

1. 研究開始当初の背景

平成 26 年の高年初産婦の全出産数に占める割合は 9.9%であり¹⁾、平成 7 年の 2.2%の約 4 倍以上となり、平成 23 年のそれは 8.4%であり年々上昇傾向にあった。国内外の文献を検討した結果、coparenting を促す出産前教育プログラムの Randomized Controlled Trial がある²⁾⁻⁴⁾が、高年初産婦に対する妊娠期からの子育て支援に関する研究は殆どない。産後うつ予防のための妊娠期の保健指導⁵⁾⁶⁾・出産心理教育プログラム⁷⁾による介入研究が散見する⁸⁾。これらの研究成果によると、産後うつ予防の看護としては単独の内容では効果がなく、複数の内容を統合した看護介入プログラムが有効であることが示唆されている⁸⁾。しかしながら、生殖補助医療の進歩に伴い急増している高年初産婦に特化した、産後の健康問題に対応する効果がある妊娠期の看護介入プログラムは開発されていなかった。

【引用文献】

- 1) 財団法人母子衛生研究会編．母子保健の主なる統計．母子保健事業団，50-52，2016.
- 2) Feinberg ME, Kan ML. Establishing family foundations: Intervention effects on coparenting, parent/infant well-being, and parent-child relations. *Journal of Family Psychology*, 22(2), 253-263, 2008.
- 3) Petch JF, Halford WK, Creedy DK, Gamble J. A randomized controlled trial of a couple relationship and coparenting program (Couple CARE for Parents) for high- and low-risk new parents. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 80(4), 662-673, 2012.
- 4) Doss BD, Cicila LN, Hsueh AC, Morrison KR, Carhart K. A randomized controlled trial of brief coparenting and relationship interventions during the transition to parenthood. *Journal of Family Psychology*, 28(4), 483-49, 2014.
- 5) 新井陽子．産後うつの予防的看護介入プログラムの介入効果の検討．*母性衛生*，51，144-52，2010.
- 6) 寺坂多栄子，岡山久代．妊娠末期・産褥早期における産後うつ予防の保健指導の効果．*母性衛生*，56，87-94，2015.
- 7) Ngai FW, Chan SW, Ip WY. The effects of a childbirth psychoeducation program on learned resourcefulness, maternal role competence and perinatal depression: a quasi-experiment. *International Journal of Nursing Studies*, 46, 1298-1306, 2009.
- 8) 新井陽子，高橋真理．産後うつ病の妊娠期予防的介入におけるシステムティック・レビュー．*母性衛生*，47，464-73，2006．

2. 研究の目的

妊娠期からの切れ目ない子育て支援充実のために、高年初産婦とその夫に対する妊娠期の子育て支援プログラムを開発し、その効果を実験研究デザインで 疲労、産後うつ症状、母親役割の自信と満足の見点から、産後入院中、産後 1、2 か月に検証する。

3. 研究の方法

【研究 1】出産前教育に関する文献検討、アジアにおける初産婦に対する出産前子育て教育の効果検証に関するシステムティックレビュー

The JBI Database of Systematic Reviews and Implementation Reports に 2019 年に採択された 'Effectiveness of parenting education for expectant primiparous women in Asian countries: a quantitative systematic review protocol' に従い、量的研究のシステムティックレビューを行った。Review question は 'What is the effect of antenatal parenting education on parenting stress, maternal depressive symptoms and maternal confidence, compared to usual care, for expectant primiparous women in Asian countries?' であった。

【研究 2】高年初産婦とその夫に対する出産前教育プログラムに関する研究

本研究は無作為割付を行う実験研究デザインを用いた。対照群は沐浴の指導 e-Learning を受ける群で、介入群は開発した高年初産婦に特化した看護介入プログラム(e-Learning とブックレット)を受取る群である。参加同意を確認した後に、研究参加者を無作為に対照群、介入群に割り付けた。両群の夫婦に事前調査を行った後に、それぞれの出産前教育、e-Learning を配信している。新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を受け、研究参加者募集を 2021 年 2 月末まで行った。

研究参加登録後の妊娠末期の e-Learning 配信前と配信後、産後 1 か月、産後 4 か月の合計 4 回の研究データ収集を自記式質問紙によって郵送法にて縦断的に行った。従属変数である 子育て生活準備状況と育児に対する自己効力感:夫婦両方、蓄積疲労:産後の蓄積疲労尺度(Postnatal Accumulated Fatigue Scale): 夫婦両方、産後うつ症状:日本版エジンバラ産後うつ病自己評価票 (Edinburgh Postnatal Depression Scale): 夫婦両方、母親役割の自信と母親であることの満足感「母親役割の自信尺度」と「母親である

ことの満足感尺度」：褥婦のみ、 夫婦ペアレンティング調整尺度：夫婦両方で測定した。

4. 研究成果

【研究1】

652人の妊婦を対象とする4つの研究が含まれていた:3つは無作為化比較試験であり、1つは準実験的研究であった。研究は中国、香港、台湾で行われ、次の出産前子育て教育介入:psychotherapy-oriented childbirth education; childbirth psychoeducation based on the concept of learned resourcefulness; and Internet newborn-care education based on self-efficacy theory が含まれていた。全体として、含まれる研究の方法論的な質は中程度であった。サンプルサイズが小さく、介入内容、集団、フォローアップ時間の違いなど、異質性のためにメタ分析は不可能であった。そのため、3つのアウトカム毎にナラティブによる統合を行った。結果として母親の自信をアウトカムとした3つの研究(n=496)のうち、2つは介入群で産後6週間(P=0.000, Cohen's d=1.41)および産後3か月(P=0.016, Cohen's d=0.35)で有意に高い母親の自信を示した。しかし、1つの研究では有意なグループ間の差は示されなかった。母親のうつ症状をアウトカムとした3つの研究(n=534)のうち、2つは産後3か月(P=0.018, Cohen's d=-0.34) および産後6か月(P=0.005, Cohen's d=-0.42)において、うつ症状が有意に少ないことが判明した。しかし、1つの研究では有意なグループ間の差は示されなかった。育児ストレスは、1つの研究で調べられた(n=156);介入直後に、育児ストレス(P=0.017, Cohenのd=0.38)が有意に低下した。

以上より、アジアの妊娠中の初産婦における産後の母親の自信、母親のうつ症状、育児ストレスに対して、特定のタイプの出生前子育て教育の有効性を裏付ける十分な証拠がなかった。しかし、本研究の結果は、特定の理論に基づく出生前子育て教育が、産後の母親にとって潜在的に有効であることを示唆している。アジアにおける妊娠中の初産婦に対する出産前子育て教育には、さらに質の高い研究が必要であると考えられる。この結果は、Effectiveness of parenting education for expectant primiparous women in Asia: a systematic review.として投稿し、DOI:10.11124/JPBIR-D-19-00327に掲載された。

【研究2】

研究参加登録者は夫婦160組320人であり、介入群の夫婦81組、162人、対照群夫婦79組、158人であった。また、2021年3月末日において、産後4か月までの研究データ収集の終了者は、介入群の夫婦59組(72.8%)個人119人(73.5%)、対照群夫婦55組(69.6%)、個人111人(70.3%)であった。産後4か月までの研究データ収集のため、2021年9月までデータ収集がかかる予定である。既に、半分くらいはデータ確認とコーディングをしているところであるが、すべての研究参加者の縦断データ収集終了後に、データ入力を完了させて、データクリーニング、データセットの固定を行い、データ分析に移行する予定であり、まだ、研究成果を報告できない状況ある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Mori, Emi; Iwata, Hiroko; Maehara, Kunie; Sakajo, Akiko; Ina, Kei; Harada, Nami	4. 巻 17
2. 論文標題 Effectiveness of parenting education for expectant primiparous women in Asian countries: a quantitative systematic review protocol	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JBI Database of Systematic Reviews and Implementation Reports	6. 最初と最後の頁 1034～1042
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11124/JBISRIR-2017-003974	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwata, Hiroko; Mori, Emi; Maehara, Kunie; Harada, Nami; Saito, Asuka	4. 巻 19
2. 論文標題 Effectiveness of parenting education for expectant primiparous women in Asia: a systematic review	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JBI Database of Systematic Reviews and Implementation Reports	6. 最初と最後の頁 525-555
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11124/JBISRIR-D-19-00327.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Mori E, Maehara K, Iwata H, Kosaka M, Kimura K, Saito A, Ina K, Sakajo A
2. 発表標題 Development of Web-based Parenting Education Program to Promote Parental Adaptation in Older Expectant Primiparous Women and Their Partners
3. 学会等名 14th International Family Nursing Conference 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iwata H, Mori E, Maehara K, Harada N, Saito A
2. 発表標題 Effectiveness of parenting education for expectant primiparous women in Asia: a quantitative systematic review
3. 学会等名 The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars 2020（国際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩田 裕子 (Iwata Hiroko) (00292566)	千葉大学・大学院看護学研究科・准教授 (12501)	
研究分担者	木村 佳代子 (Kimura Kayoko) (30635371)	千葉大学・大学院看護学研究科・助教 (12501)	
研究分担者	遠山 房絵 (Toyama Fusae) (70845073)	千葉大学・大学院看護学研究科・助教 (12501)	
研究分担者	小坂 麻衣 (Kosaka Mai) (40735429)	千葉大学・大学院看護学研究科・助教 (12501)	
研究分担者	坂上 明子 (Sakajo Akiko) (80266626)	千葉大学・大学院看護学研究科・准教授 (12501)	
研究分担者	青木 恭子 (Aoki Koyo) (60714110)	千葉大学・大学院看護学研究科・助教 (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	前原 邦江 (Maehara Kunie)		
研究協力者	稲 桂 (Ina Kei)		
研究協力者	齋藤 明香 (Saito Aska)		
研究協力者	原田 奈美 (Harada Nami)		
連携研究者	玉腰 浩司 (Tamakoshi Koji) (30262900)	名古屋大学・医学系研究科（保健）・教授 (13901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関